

城下町寺社を歩く！

村松三万石



▲日枝神社



▲日枝神社 社殿彫刻
細野六左右衛門 彫刻



▲正圓寺
越後三十三観音 第三十一番札所



▲英林寺
村松堀家の菩提寺



▲直央神社



▲村松城模型
郷土資料館内に展示

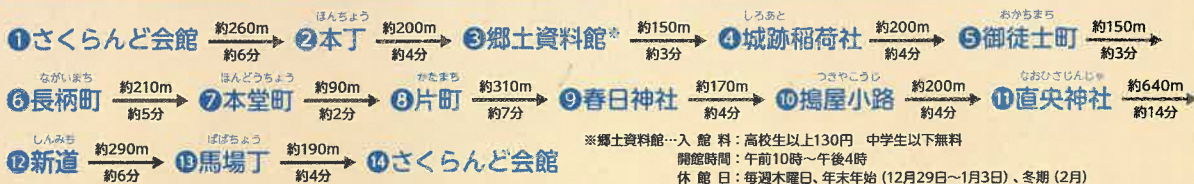
A
コース

ぶらり探訪寺社巡り



B
コース

城下町村松ルーツ探し



C
コース

じっくりゆーっくり歴男歴女



観光ガイド

各コース観光ガイドによる城下町案内を利用できます

- ・お二人以上の申込みで、一週間前までに要予約
- ・ガイド1名につき10名まで案内可能
- ・各コース（おおよそ2時間）参加者1名あたり500円（税込）



お土産

かさばら（こうじ漬）

五泉市村松乙631/TEL:0250-58-6386

（株）舎川本舗（和菓子）

五泉市村松甲1941/TEL:0250-58-6504

舎川日盛堂（和菓子・洋菓子）

五泉市村松甲1838/TEL:0250-58-6604

クレープ*はなちゃん

五泉市村松甲1854-1/TEL:090-4608-0794
※水、木、日、祝日（休み）午後3時～午後6時まで営業



お食事処

割烹 伊藤屋

五泉市村松甲2169-6/TEL:0250-58-6231

割烹 松の家

五泉市村松乙555-1/TEL:0250-58-7151

中華レストラン 上海

五泉市村松乙256-3/TEL:0250-58-6353

割烹 新瀧

五泉市村松甲2114/TEL:0250-58-7191

ふるさと会館

五泉市愛宕甲2929-1/TEL:0250-58-5130

お食事処 壽亭

五泉市村松甲3867-5/TEL:0250-58-6456

味の店 進来軒

五泉市村松甲2206-2/TEL:0250-58-6696

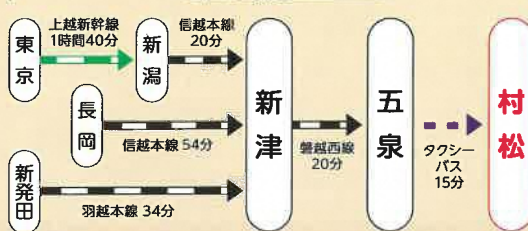
殿様の食事

参加交代時に宿場町で食したメニューを再現した食事を堪能いただけます。

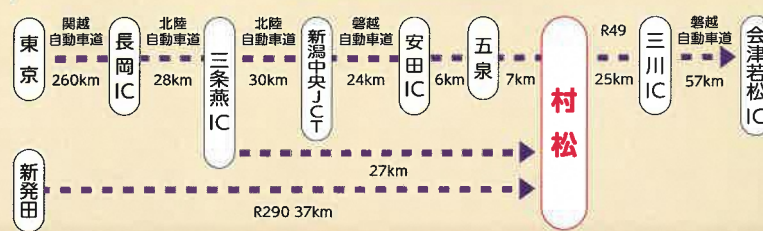
- ・一週間前までに要予約
- ・1食2,500円（税込）～ 殿様の食事提供店
- ※料金とメニューは季節により異なります



鉄道でのアクセス



車でのアクセス



お問合せ・お申込み

（一社）五泉市観光協会事務局

〒959-1823 新潟県五泉市駅前1-5-4
TEL:0250-47-7518 FAX:0250-47-7528

五泉市観光協会五泉市観光案内所

TEL:0250-47-8388 FAX:0250-47-8389



申込書はホームページからダウンロードすることもできます

城下町めぐり

城下町村松・寺社を歩く!



1 正圓寺(真言宗)
村松で最も歴史の古いお寺で、延暦15年(796)の伝教大師最澄が創建と伝えられる。近隣唯一の古刹。慈光寺、英林寺と並び、村松三ヶ寺のひとつ。
境内に記る観音堂は、越後三十三番のうち三十一番札所。市文化財指定の五輪線刻塔婆が11基ある。
●五泉市村松甲6335-1(寺町)



2 正福寺(真言宗)
延暦15年(796)伝教大師最澄の創建と伝えられる古刹である。境内に、背面金剛・しあわせ観音を祀っている。
庭園は全て杉苔に覆われており、特に、若葉、紅葉のモミジが美しい。
●五泉市村松甲6345(寺町)



3 清水寺(曹洞宗)
大同元年(806)坂上田村麻呂が、越後彦彦郷の豪族の叛乱を鎮定するために、ここに陣を構え、祈禱所として建立したという。
境内の観音堂は、村松城御外庭にあった愛宕社を移築したものである。
●五泉市村松甲6353(寺町)



4 英林寺(曹洞宗)
村上堀家の菩提寺(現在光徳寺)。村上堀家が無嗣断絶となり、村松堀家がその祭祀を引き継いだため村松に移転。村松堀家の菩提寺として現在に至っている。藩祖直奇公の墓は、江戸上野寛永寺の塔頭凌雲院にあった。昭和30年西洋美術館建設のため、凌雲院跡地にあった堀家の墓所が東京都に接収されしばらく渋谷の長泉寺に移されていたが、平成17年、ここ英林寺に移された。
●五泉市村松甲5794(寺町)



田上町・三条市方面

加茂市方面



1 日枝神社
比叡山の地主神、山王権現を祀る。正圓寺(創建寺は天台宗)を創建する際、延暦寺の守護神である山王権現を勧請したものである。創建以来村松と近郷の鎮守として尊崇されてきた。当初は臥龍山に祀られていたが、後に寺町に移転。弘化2年(1845)九代目藩主堀直央が、正圓寺の歯骨堂のあった現位置へ社殿を造り移転した。今の社殿の建設に当たっては細野六左衛門と5代目小黒左衛門が棟梁を勤めている。
●五泉市村松甲5976(寺町)



2 住吉神社
古くは市神様として中町の裏手に祀られていたといふ。舟運、商業の神様である。堀直吉が村松に城下町の縄張りをするとき、町の東のあか山に移転した。その後村松の城から見て、吉の方位である辰巳に当たる現地に移転。この際、祭神として藩祖直奇公を加えた。本殿は4代目、拜殿は5代目小黒左衛門が棟梁を勤めている。
●五泉市村松甲5959(寺町)



3 直央神社
祭神は堀丹後守直央。文久2年(1862)9月創建。直央の治政の間は、藩政の改革、城下町の重修、領内産業の振興と治績大いに挙げたため直央を中興の祖として同地に祀ったもの。
神社後方が直央墓所になる。(本堂山)



4 春日神社
所伝によると弘仁5年(814)開基といふ。寛延寺社帳によると、往古は本堂町端、現不動堂の地に鎮座し、元和元年(1615)春日山西方に、正保2年現在地に遷座したものとす。同社は修験福寿院(藤沢氏)が支配していたが、元文4年(1739)五社が制定されると、住吉とともに五社の一つに指定された。(春日小路)



5 城跡稲荷社
位置については、幕末の絵図によると現城跡公園内の花月島入口付近にあった。建物は幕末村松城改修の際に改造されているが、その際、江戸の宮彫石川藤吉が同社の彫刻の一部を刻んでいる。
庶民後は旧藩士並びに町民有志によって経営されるようになるが、大正7年社地変更を願って、現在地に引移った。(西公園)



6 菅原神社
「寛延寺社帳」では正保年中(1644-47)現在の社が村松城鬼門に当るので、村上堀家の先例に準じ天満宮を勧請し、正圓寺に支配させたとある。
庶民から学問、芸術の神として崇敬され、8月24日の宵宮には寺子の書道奉納や花火も打上げられ賑わったといふ。明治3年正圓寺支配を改め神官支配となる。(横町)



永享、文安の頃(1429-1449)川内村雷山が無嗣断絶となり、村松堀家がその祭祀を引き継いだため村松に移転。村松堀家の菩提寺として現在に至っている。藩祖直奇公の墓は、江戸上野寛永寺の塔頭凌雲院にあった。昭和30年西洋美術館建設のため、凌雲院跡地にあった堀家の墓所が東京都に接収されしばらく渋谷の長泉寺に移されていたが、平成17年、ここ英林寺に移された。
●五泉市村松甲5792(寺町)

一乗坊日信が文安3年(1446)大蒲原村刈羽に創建したが、江戸時代初期、町に法華宗勝劣派の寺が無いということで、村松藩士剣持久兵衛、速水久左衛門、山内喜左衛門が頼んで慶安元年(1648)実成坊日充聖人が寺町に再興した。境内には5代目小黒左衛門の建造による鬼子母神堂が祀られており、歴史的価値の高い建造物である。
●五泉市村松甲5788(寺町)

木越の住民八木伝兵衛が智法院日蓮に帰依し、慶安3年(1650)に堂宇を建立。村松藩家老の林文五左衛門ら、藩の有力者の帰依を得て隆盛を誇った。現本堂の建立にあわせて子安鬼子母神を奉安した。本尊勧請様式は一塔四尊四土、合掌印である。相像は説法像で、慶安間に造されたものである。
●五泉市村松甲5763(新町)

天文3年(1534)正乗坊が創建した。寛文3年(1663)に作られた鐘は、元禄4年から村松藩の「時の鐘」となり、鐘撞き料として年々二十七石(後四石減)給されていた。廃藩後も町の時報鐘として毎年五十円が町から支給されていた。
●五泉市村松甲1850(城町)

堀口美濃守貞満の六世の孫、平左衛門尉祐満が文明年中(1469-1487)本願寺蓮如に帰依し、延徳元年(1489)岐阜の瑞龍山に庵を結んだのが始まり。1644)堀家の移封により村松へ移転。明治元年(1868)戊辰戦争の際焼失、その後再建された。
●五泉市村松甲5784(浦寺)

開祖は吉武酒造之丞藤原直道。応仁元年(1467)本願寺蓮如の直弟子となり道誓坊と称した。寺はもとは村上にあったが、正保元年(1644)堀家の移封により村松へ移転。明治元年(1868)戊辰戦争の際焼失、その後再建された。
●五泉市村松甲5779(浦寺)

開祖は川井右兵衛佐善は越中の人である。本願寺蓮如が越前吉崎にいたとき仕えていた。現在の新潟市女池に寺があったが、水難のため寺は失。4世の善宅が、村松藩士大野金左衛門の協力を得て、正保元年(1644)現地に養壽寺を建て、明暦3年(1657)円満寺と改めた。
●五泉市村松甲5773(浦寺)

慶長5年(1600)真蓮社転管門玄が村上に開基し、安楽寺と称した。正保元年(1644)堀家の移封に伴って、四世 蓮社生善吾虎が村松へ移ってきた。根木町裏の三味原で説法していたが、翌2年(1645)極楽である松岡半左衛門の尽力で現地に再興することができた。境内に地藏堂が祀ってある。
●五泉市村松甲5769-1(新町)



まち歩きを楽しむために

境内(敷地内)に入り本堂などを拝観される際は、必ずお寺様にご挨拶してからにしてください。
・大声を出したり、騒いだりしないなど、基本的なマナーを守るようご注意ください。
・道路を歩く際は、車などに十分注意してまち歩きをお楽しみください。